

## ● 先進自治体の実践例 ●

### 1 栃木県栃木市 既存インフラを活用した移住定住促進

#### ■ 栃木市の取り組みの特長・ポイント

- ◆ 市内の主な公共交通機関である東武鉄道を活用した移住体験ツアーや通勤補助金、市内のコミュニティラジオでの移住者コーナーで、既存の交通インフラ・通信インフラを生かした取り組みを行っている。
- ◆ 市内中心部という恵まれたロケーションにある、まちなかの風情ある空き蔵・空き家を活用した移住体験施設で栃木市の暮らしを体感できる。

### 2 長野県大町市 地域資源を活かせる趣味に関心を持つ人に積極PR

#### ■ 大町市の取り組みの特長・ポイント

- ◆ 北アルプスという雄大な資源を活かし、登山情報誌等も活用しながら、アクティビティやアウトドアを楽しむ人をターゲットにした情報発信に力を入れている。また、大町の「水」をブランディングツールにした施策も展開している。
- ◆ 移住者が経営している店舗や移住支援を行う店舗を「移住定住協力店」として登録。移住を考えている人や移住して間もない人等がその店へ行くと、情報提供を受けたり店主に相談したりすることができる。

### 3 島根県浜田市 2種類の相談員による丁寧な情報提供・サポート体制

#### ■ 浜田市の取り組みの特長・ポイント

- ◆ 暮らしや仕事は「定住相談員」、住まいは「空き家バンク相談員」、2人の専任相談員が連携して、移住希望者への対応にあっている。
- ◆ 定住相談員の取り組みや経験を生かし、「移住のトリセツ～はまだ暮らしのはじめ方～」をホームページ上に整備。7つのステップで、何を考え、誰に相談し、解決していくと移住が実現するか、必要な情報へのリンクとともに分かりやすく解説。

### 4 京都府福知山市 ワンストップ窓口がオーダーメイドでマッチング

#### ■ 福知山市の取り組みの特長・ポイント

- ◆ 移住定住サポートセンター(ワンストップ窓口)が、移住希望者のニーズに合わせてオーダーメイドでの情報提供や現地での案内を行っている。
- ◆ 最長1年間利用可能なお試し住宅、空き家バンク内覧時のコミュニティとの接続、オンラインでの空き家内覧会等、住まい・生活周りの支援が充実している。

### 5 福井県福井市 ターゲットを明確にした各種施策を展開

#### ■ 福井市の取り組みの特長・ポイント

- ◆ 週末就活という週末を利用した現地企業訪問施策を実施。市の職員と一緒に地元企業3社を訪問する。
- ◆ リモートワークをしている人、医療・介護職の人、若い世代、子育て世代等、ターゲットごとに補助金を加算する制度を設け、地元が欲しい人材をうまく移住につなげている。
- ◆ 地域との関わり度合いが低い段階から移住に至るまで、関係人口の裾野拡大と移住までのステップを意識した各種施策を展開している。

### 6 広島県福山市 パルソナを設定し、移住者増・転出者減両方に取り組む

#### ■ 福山市の取り組みの特長・ポイント

- ◆ 社会増減のターニングポイントやライフスタイルに応じて9つのパルソナ(政策ターゲット)を設定。パルソナの満足度を高める施策を展開。
- ◆ 民間の持つビッグデータの活用やワーケーション事業の実施等、最新のトレンドや情報もうまく活用して移住施策を推進。

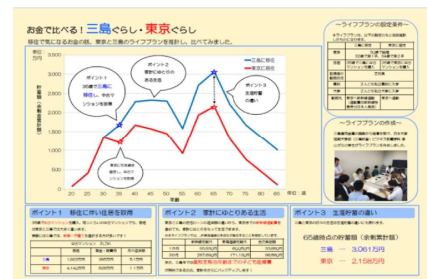
### 7 静岡県三島市

#### ■ 三島市の取り組みの特長・ポイント

- ◆ ほぼ確実に座れる新幹線通勤で都内まで1時間以内であり、首都圏在住者が仕事を変えずに移住できる、という圧倒的な強みを生かしてPRしている。

#### 新幹線通勤生活と東京在住生活の費用比較をシミュレート

- 東海道新幹線の三島駅があり、新幹線の車両基地があるため、終電が三島止まりである。また、朝の6時から7時の通勤時間帯に三島始発のこだまが6本出ており、1時間以内で都内まで出られ、さらに、ほぼ確実に座れるという好条件である。
- 一方新幹線通勤はお金がかかるが三島市では新幹線通勤への補助金はない。ただし、生涯スパンで収支をシミュレートして、生涯東京で暮らした場合と三島に移住して新幹線通勤で暮らした場合の貯蓄額を比べると三島市に移住するほうが差し引きプラスであり、そのことを示したパンフレットを作成している。



図：東京に居住し続けた場合と三島市に移住した場合の貯蓄比較  
出所：三島市提供